

現場を体験しよう

教育ボランティアのススメ

ボランティア活動には、障害者施設での活動・被災地での支援活動等、さまざまあります。これらの活動も大切ですが、特に教職を目指す人は「教育ボランティア」として小学校・中学校などで活動することにより、学校での経験を多く積むことが大切です。ぜひ学校に身をおいて、子どもとふれあう経験をしてみましょう！ 教職センターでは、学校で活動しようとする皆さんを応援します。

また、近年の教員採用試験では、願書にボランティア経験を記載したり、面接で聞かれたりします。このことから、本気で教員を目指す皆さんにとって、ボランティア活動がいかに大切であるかがわかります。

——さあ、教育の現場へ踏み出そう！

学校で学べること

皆さんが「教育の現場へ踏み出す」メリットは、以下のようなことがあります。

- (1) 学校の状況がわかり、教職への理解が深まる。
 - 子どものかわいらしさ、優しさに触れ、教職のすばらしさに気づく。
- (2) 子どもや教職員と接し、視野が広がり、接し方、関わり方を体験的に学べる。
 - 学校ではさまざまな人と出会える。
- (3) 役立つ喜びが味わえ、充実した時間を過ごせる。
 - 教職員や子どもから必要とされ、頼りにされることは生きがいにつながる。
- (4) 教育実習や教員採用試験の際に、これらの経験は有利である。

そして、学校でのボランティア活動を通して、次のようなことが学べるとすばらしい経験になると思います。

- (1) 学校（幼稚園）の諸活動を肌で感じ体験すること。
- (2) 幼児、児童、生徒との関わり方を学ぶこと。
- (3) 教師をアシストしながら実践力を養うこと。
- (4) 活動を通して学んだことを、大学での学修に生かすこと。
- (5) 自己の適性や進路について具体的に見つめ、キャリア意識を形成すること。

情報を手に入れよう

教職センターでは各学校や教育委員会から寄せられる「教育ボランティア」をはじめ、「TA（ティーチング・アシスタント）」「メンタルフレンド」「学外研修補助」「夏期プール指導員」等さまざまな形で募集される活動の情報提供を行っています。

これらの情報は教職センターの窓口やセンターのWebサイト・UNITAMA等でお知らせをしていますので、各自、確認をしてください。

なお、個人で開拓したり、知り合いから紹介してもらったりしても結構です。できるだけ多くの経験を積むようにしてください。

ボランティアを行う際に気をつけること

1 保険への加入

ボランティア活動は、大学の正課外で行う活動なので、怪我や事故があった場合、大学で加入している保険は適用されません。活動先で保険に入っているか（もしくは、加入できるか）をよく確認するようにしましょう。

2 大学の授業との兼ね合い

ボランティアを理由にした授業の欠席は公欠になりません。大学の授業を最優先とし、授業の空き時間や休日などを利用して活動してください。

3 教育ボランティアとしての心構え

- (1) 学校等からの要請に対する「お手伝い」ではなく、社会貢献と自己研鑽の活動であることを自覚し、責任を持って行動すること。
- (2) ボランティアであっても、幼児・児童・生徒・保護者から見れば「先生」です。言動や服装に十分留意し、児童・生徒等の模範となるよう心がけること。
- (3) ボランティア活動は、自分が主体的に参加するものであり、これによる大学での授業出席や単位修得について特別な配慮はされません。大学での活動に支障をきたさないよう、学校等の要請先と、活動日程や活動内容について相談し、自己管理すること。
- (4) ボランティア活動先での本人のケガ、本人との関わりによる児童・生徒等のケガ、活動中の器物破損等事故については、大学で加入している傷害保険、損害保険は適用できません。保険の有無等については、事前にボランティア先に確認しておくこと。
- (5) 活動を通じて知りえた個人情報、活動中はもちろんのこと、活動完了後も外部に漏らしてはなりません。特にWebに書き込むことは厳禁です。また、写真やビデオ撮影も厳禁です。
- (6) 住所、電話番号等連絡先やメールアドレスの交換などは絶対に行わないこと。活動内容や児童・生徒等との関わりの中で、わからないことがあった場合は、自分で判断せず、必ずボランティア活動先の教職員に相談し、指示を仰ぐこと。
- (7) 決められた日時を守り、やむを得ず欠席・遅刻・早退をする場合には、事前にボランティア先に連絡をすること。
- (8) ボランティア活動を越えて、児童・生徒等と会ったり、手紙やメールで交信する等は慎むこと。